

# vol. 66

## バレエ・リュスを彩った ダンサーの肖像 3

展示期間 / 2018年2月15日(木) ~ 3月31日(土)

構成 / 森瑠依子

展示 / 関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

シリーズ最終回として、バレエ・リュス後期のスターたち、特に、ジョージ・バランシンが振付、セルジュ・リファールとアリシア・マルコワが主演した『牝猫』(1927)を中心にご紹介する。1929年にディアギレフが死去し、バレエ・リュスが解散すると、彼らはロシアで培われたクラシック・バレエの伝統を各国にもたらし、それぞれの国の個性と融合させて、英国ロイヤル・バレエ、ニューヨーク・シティ・バレエの基を築き、パリ・オペラ座バレエを復興させた。また、バレエ・リュスのレパートリーを披露・指導したことで、『レ・シルフィード』『ばらの精』『ペトルーシュカ』といった名作が各国に伝えられた。バレエ・リュスのダンサーたちのバレエ芸術への貢献は、計り知れないほど大きい。

### <ジョージ・バランシン 1904-1983>



バレエ・リュス最後の振付家で、20世紀から現代までの最も重要な振付家の一人でもある。マリインスキー・バレエ(当時はGATOB)で踊りつつ「モロドイ(若い)・バレエ」を結成して斬新な作品を発表し、人気を集めていた。

1924年に同僚らとロシア革命後のソヴィエトを出て、バレエ・リュスに入団。『ナイチンゲールの歌』(1925)、『ネプチューンの勝利』(1926)、『牝猫』(1927)、

『ミューズを導くアポロ』(1928)、『放蕩息子』『舞踏会』(1929)と、次々と振付作品を発表し、ディアギレフの信頼も厚かった。1934年にリンカーン・カーステインに誘われてアメリカに渡るとスクール・オブ・アメリカン・バレエ(ニューヨーク・シティ・バレエに発展)を創設し、アメリカの新しいバレエを育てた。バランシンの父と弟は作曲家で、彼自身も音楽の才能に恵まれていた。バレエ・リュス時代に始まったストラヴィンスキーとの共作からは数々の傑作が生まれている。

『セレナーデ』(1934)、『水晶宮(シンフォニー・イン・C)』『テーマとヴァリエーション』(1947)、『ジュエルズ』(1967)、『フー・ケアーズ』(1970)など、多くのバランシンの作品が世界的なレパートリーとして定着している。

### <セルジュ・リファール 1905-1986>



バレエ・リュス最後の男性スター。ニジンスカがキエフで教えていた生徒の一人で、1923年にバレエ・リュスにデビュー。ディアギレフに寵愛され、着実に力を付けてニジンスカ、マシーン、バランシンそれぞれの新作に主演。特にバランシン振付の『牝猫』『ミューズを導くアポロ』『放蕩息子』の主演で高い評価を受けた。バレエ・リュス解散後、パリ・オペラ座バレエのエトワール・振付家・芸術監督となり、長く停滞していたオペラ座のバレエを再興させた。振付の代表作は『白の組曲』(1943)。1952年にリセット・ダルソンヴァル、リアヌヌ・ダイデ、アレクサンドル・カリウジニーのと共に来日公演を行い、戦後の海外バレエ団来日の先陣を切っている。多芸多才の社交家で世間の注目を浴びることも多く、1958年にバレエの上演をめぐるクエバス侯爵との決闘がニュースで報道された。フランスの有名な競走馬リファールの名は彼に由来する。

### <アリシア・マルコワ 1910-2004>



バレエ・リュス歴代最年少のプリンシパルで、14歳で入団。バレエ・リュスでは『ナイチンゲールの歌』『牝猫』のタイトルロール、『オーロラの結婚』の赤ずきん役などを演じた。

バレエ・リュス解散後は、ロンドンでバレエ・クラブ(後のバレエ・ランベール)、カマルゴ協会、ヴィク=ウェルズ・バレエ(後の英国ロイヤル・バレエ)などに出演し、フレデリック・アシュトン、アントニー・チューダー、ニネット・ド・ヴァロワら、後にイギリスを代表する振付家となる面々の初期作品を踊る。1935年にバレエ・リュスの同僚アントン・ドーリンと、マルコワ・ドーリン・バレエを結成し、世界的に活躍。ロマンティックな雰囲気をもつクラシカルなバレリーナで、『ジゼル』では並ぶ者が無いと言われた。また、イギリス人で初めて『ジゼル』と全幕の『白鳥の湖』で主演したバレリーナでもある。

### <『牝猫 (La Chatte)』>

【振付】ジョージ・バランシン。【音楽】アンリ・ゾーゲ。【美術】ナウム・ガボ&アントワヌ・ペヴスナー。【初演】1927年4月30日 モンテカルロ。【原作】イソップの寓話。

ロシア構成主義の美術家がデザインした装置と衣装の一部にセルロイドが使われ、透明素材が反射し煌めく照明効果を放った。リファールはこのバレエで大成功を収め、女神の力に娘に変身した猫の役は、マルコワの当たり役だった。



Chacott Web Magazine【DANCE CUBE】連載中  
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」  
(text 森瑠依子)



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用